愛媛県ノーリフティングケア普及啓発モデル事業

社会福祉法人　砥部寿会
高齢者総合福祉施設　特別養護老人ホーム砥部オレンジ荘
リーダー　小笠原理子(副主任)
サブ　　山﨑容道（主任）　北山春奈　和田夕子　高野ひろ子

特別養護老人ホーム　砥部オレンジ荘

所在地：伊予郡砥部町大南

設立：平成７年３月

事業開始：平成７年４月

施設概要

- （従来型特養）
- 入所定員：55名（男性9名　女性46名）
- 平均年齢：87.1歳（68歳～99歳）
- 平均介護度：4.0
- （要介護3：9名　要介護4：24名　要介護5：17名）
- （車椅子の使用率＝85.5%　移乗介助が必要：87.2%）

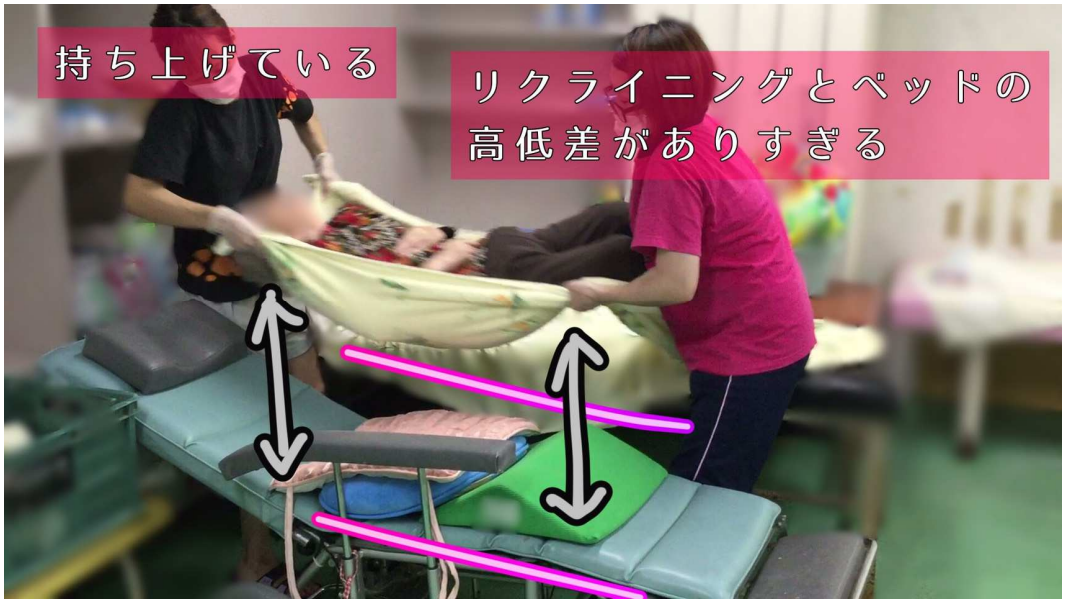
- （ショートステイ）併設
- 定員：１２名
- 平均介護度：3.5
- 毎月平均：78歳～94歳の方が利用されている
- （令和2年6月時点）

はじめに

（ノーリフティングのモデル事業に応募した理由）

- **電動のベッドが少ないため、移乗や排せつ介助を行う際に中腰姿勢や持ち上げる動作が多く発生している。**
- **フレックスボードやスライディングボードは施設にあるものの、職員が使用方法や用途を理解できていない。**
- **拘縮、筋緊張亢進の方の移乗や更衣の際に、内出血や表皮剥離が発生してしまう。**
- **ベッドからの移乗を二人の職員で行う場面が多く、現在タオルを使用して、持ち上げるような動作でリクライニング車椅子に移乗をしているため、入所者、職員ともに負担になっている。**
- **入浴介助時、脱衣場のベッドの高さが調整できないため、高い位置のベッドへ入浴後で濡れた体の入所者を、タオル移乗で抱え上げなければならない。**
- **トイレでの排せつ介助では、立位困難な方を前から抱え、2人の職員で介助を行っている。**

車いす→ベッドへ



職員にも入所者にも負担がある事が分かっていたが、
バスタオルで包み持ち上げる方法しか無い状態

ノーリフティングケアのメンバーで話し合いを開始

- 導入前アンケートの配布
- 要介護者別リスク見積書の作成
- ノーリフティング導入見積もり表の作成
- ノーリフティング委員による話し合い(会議)
- 事業所内アンケート10月、1月実施
- 福祉用具導入、職員への使用周知
- 導入後アンケートの配布

福祉用具・機器の台数

ベッド所有台数	６２台	ベッドの内訳(高さ調節機能)	電動	１２台
			手動	５０台
		介助バー所有台数		１２台

車いす所有台数	５１台	車いすの内訳(種類)	スタンダード	１２台
			モジュール	２３台
			リクライニング	１１台
上記のうちアームサポート跳ね上げ機能のあるもの	３５台		ティルト＆リクライニング	５台

スライディングボード	３枚	H25年　8月～
愛移乗くん	１台	H29年　1月～
フレックスボード	１枚	H30年　9月～

令和2年6月時点

実施前アンケート
（看護職員4名　介護職員20名）

- 現職に就いてから腰痛が発生した　→　96%
- 業務中に持ち上げたり、引きずったりする介助はあるか？→100%

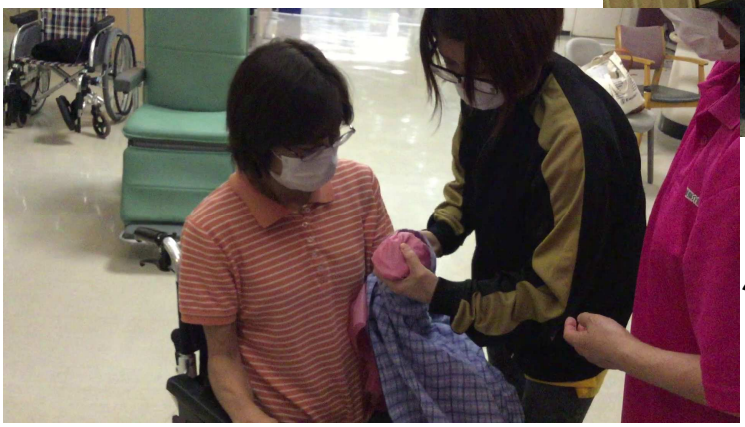
職員のほとんどが、腰痛があり!!
現職で腰痛が発生した状態!!

これからの目標

- 職員が2人で行っているタオルでの移乗介助を、機器や福祉用具を使用して、入所者にも職員にとっても負担軽減をしたい。
- 福祉用具や機器を導入して、介助中の内出血や表皮剥離等のケガを防止したい。
- 職員が少なくなる時間帯の移乗介助にて、一人で安全に行える移乗方法を習得したい。
- 入浴介助時の移乗や更衣に係る負担を軽減したい。
- 居室のベッド環境を少しずつ改善して、介助中の中腰姿勢となる場面を減らしたい。
- 福祉用具の使用用途や使用する意味を理解し、職員のスキルUPを目指したい。

ノーリフティングケアの取り組み開始

～移座えもんシートでベッド
での上下移動体験～



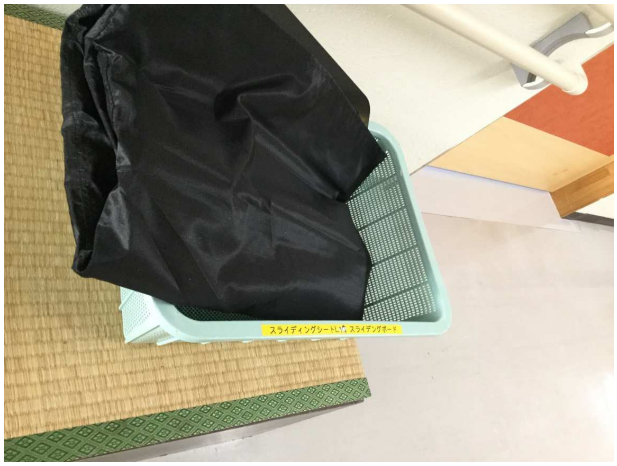
～スピラドゥで拘縮の方の
更衣動作の体験～

ノーリフティングケアの取り組み開始

～床走行リフトの体験～

～ベッド上での姿勢に関して～

研修、指導を受けたあと事業所内での取り組みを開始



居室近くの廊下にフレックスボード、移座えもんシートを配置

浴室の脱衣場にスピラドゥと移座えもんシート、フレックスボードを設置

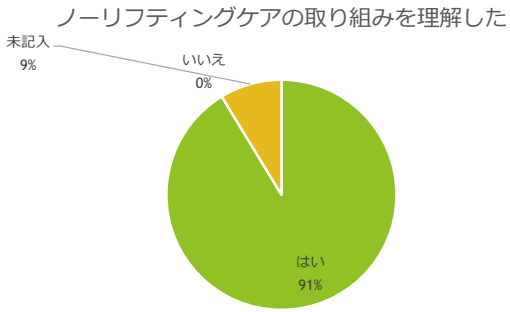
研修、指導を受けたあと事業所内での取り組みを開始

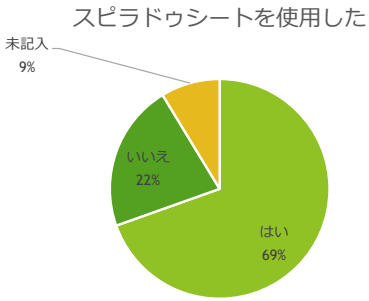
2人介助での移乗が必要な方のベッドを、両サイドから介助が行えるようなベッド配置に変更。また手動ベッドのハンドルの使用を習慣化するように、職員へ伝えていった

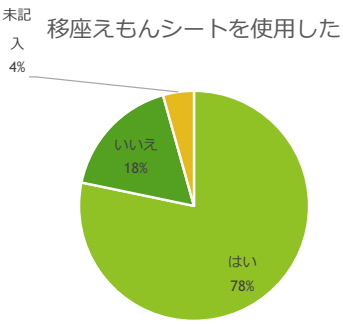
研修、指導を受けたあと事業所内での取り組みを開始

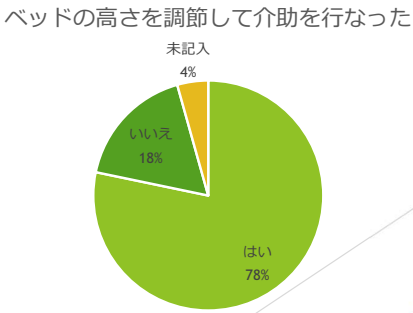
毎回必要な方の居室には、ベッドサイドに設置し、すぐに使用が出来る環境を設定していった。

事業所内での職員アンケートの結果（10月実施）









脱衣場環境の整備

今回の取り組みをきっかけに、施設で電動のボディベッド2台購入して頂きました

福祉用具の導入一覧

福祉用具	数
移座えもんシートMLサイズ	6
移座えもんシートMサイズ	１０
移座えもんグローブ	１１
スピラドゥ10m巻き	2
フレックスボード	3
MCロング	1
FSショート	1
介助用車いす　中高床タイプ	2
ロンボクッション65×75	1
ロンボクッション30×65	2
サポタイト　ブーメラン	1
アルファプラウェルピーメッシュ　ジャンボ	1

結果：導入後アンケート
（看護職員4名　介護職員19名）

・ノーリフティングケアを導入したことで負担軽減したか？
　（軽減した、やや軽減した）　→９２％
・導入した福祉用具をよく使うか？
　（よく使う）→　８３％

ほとんどの職員が、ノーリフティングケアについて内容を理解し、少しずつだが実践できるようになったと回答していた。　～しかし～

結果（課題として残ったもの）

- 腰痛に関しても、軽減したとの回答は少なかった。また、負担に感じる場面に関してチェックされている項目は減っているものの、依然、オムツ交換や移乗では負担に感じるとの結果だった!?
- 今回の取り組みをきっかけとして、電動ベッドの導入や、定期的なノーリフティングに関する職員研修も実施しながら、時間をかけて、もう少し職員へ浸透していくような働きかけが必要であることが分かった!!

まとめ

床走行リフトのデモ機を令和2年12月１日～15日まで借りて、対象の入所者へ使用。
購入に向けて令和3年度の予算に組み込むことを検討して頂いています。

※当たり前だと思っていた環境の中、入所者にとってどんな負担が見えない部分にかかっているかや、職員達が負担と思っている場面は何かを、今回PDCAサイクルをヒントに確認することが出来た。

※機器や福祉用具を活用することで、安全も確保でき、入所者、職員ともに負担軽減に繋がることが分かった。

※今まで見たことの無い、福祉用具や機器、介護の方法等の新しい情報に触れることで、当たり前と思っていた施設環境や自分達のケア方法を振り返り、新しい介護の環境へ進んで行くきっかけを作ることが出来た。

今回の取り組みに携わったオレンジ荘の特養職員

施設長：菅原哲雄
リーダー小笠原理子（副主任）
サブ　山﨑容道（主任）　北山春奈　和田夕子　高野ひろ子
介護職員：土居由美（介護リーダー）他１９名
看護職員：二宮友子（看護リーダー）他３名
機能訓練指導員：藤田健次（作業療法士）

研修の担当をしてくださった講師の先生
本当にありがとうございました

ご清聴ありがとうございました

砥部オレンジ荘職員一同